



未来へ繋げるための 環境対策の取り組み

1999年に「環境方針」を制定、 継続的な改善と環境保全に努めています

トーホーグループでは、環境対策は企業の社会的責任であると考え、1999年に環境方針を定め、環境保全に努めています。また、気候変動が企業に与えるリスク及び収益機会、自社の事業活動や収益等と与える影響についても検討を行っており、それらの開示については、TCFD または、それと同等の枠組みに基づき実施できるよう、今後3ヵ年程度を目安に計画的に進めています。

環境方針

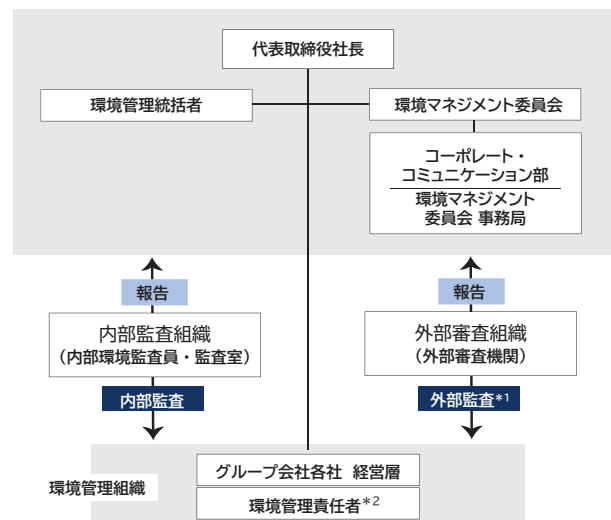
トーホーグループは「食を通して社会に貢献する」という基本理念に基づき、常に「美味しさ」「安心・安全、健康、環境」というキーワードに配慮した経営を進めております。

なかでも環境対策については企業の社会的責任であると同時に急務を要する課題であると考え、以下のことを具体的に推進し継続的な改善及び汚染の予防につとめます。

1. 対象となる事業活動において、環境パフォーマンスの継続的な改善を進め、環境保全につとめます。
2. 本社および店舗・事業所において、省資源、省エネルギーの推進に取り組みます。
3. 本社および店舗・事業所から発生する廃棄物の減量化に取り組みます。
4. 本社および店舗・事業所において廃棄物の分別回収・再資源化を推進します。
5. 環境への影響を配慮した商品の選定および提供に努めます。
6. 関連する法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
7. 本方針は環境目的および目標を設定し、見直す枠組みを与えます。
8. 本方針を実施するための組織体制を確立し、全従業員および組織の外部協力者にも方針の周知を行います。また、本方針は社外にも公開します。

環境マネジメント推進体制

国際規格「ISO14001：2015」の要求事項に基づいた環境マニュアルのもと、代表取締役社長をトップとした、環境マネジメント推進体制を構築し、リスク対策及び環境保全推進を行っています。



*1：外部審査の対象：(株)トーホー

*2：環境管理組織からの指示事項への対応、各部門及び支店・営業所・店舗の環境管理に関する業務を統括・管理する。

食品ロス、食品廃棄物の削減の取り組み

トーホグループは、食にたずさわる企業としてロス管理の徹底による食品廃棄物の削減を推進しています。また、地域社会の食品ロスに削減できるようフードドライブを推進しています。

① 在庫管理システムの活用

(株)トーホフードサービスは、2016 年度に在庫管理支援システムの機能を強化し、適正在庫の管理と消費・賞味期限別の在庫に「見える化」し、ロス管理に活かしています。

② 予約販売強化による食品ロスの削減

(株)トーホストアでは、恵方巻やクリスマスケーキなどの予約販売の強化を行い、売れ残りによる廃棄を減らす取り組みを行っています。



③ フードバンクの活用とフードドライブの推進

トーホグループでは、食品ロス削減のみならず、生活困窮者支援の観点からも重要性が高まっている「フードドライブ活動」の推進とフードバンクの活用を行っています。

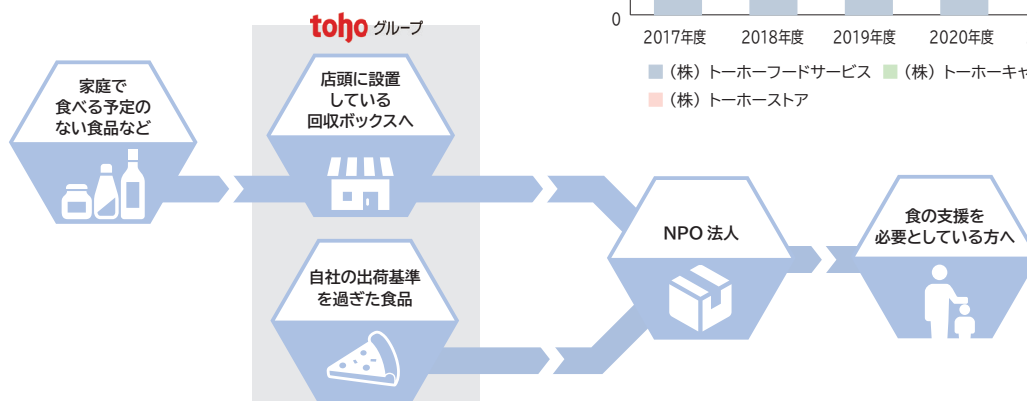
フードドライブ活動

2018 年8月からトーホストア六甲道駅前店でフードドライブ活動を開始し、現在では、トーホストア 4 店舗、せんだば船橋店で実施をしています。また、トーホ本社と(株)トーホ・北関東では、社員が食品を持ち寄り、活動を推進しています。

フードバンクの活用

(株)トーホフードサービスは、品質に問題なく賞味期限も十分あるが、自社の出荷基準を過ぎたため販売できない商品が出た場合、その一部をフードバンク実施団体に寄贈しています。

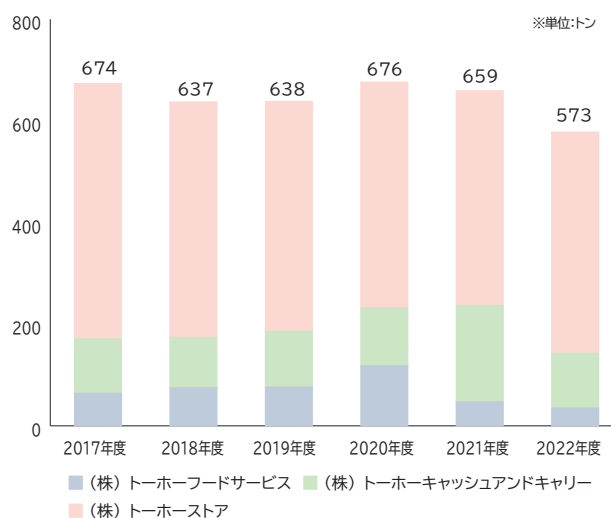
トーホグループのフードドライブ、フードバンク活用の流れ



④ 「てまえどり」の啓発・普及

(株)トーホストアでは、神戸市の食品ロス削減施策「てまえどり」の啓発・普及を推進しています。「てまえどり」は、買ってすぐ食べる場合に、値引き商品や販売期間が短い商品を積極的に選ぶ、新しい購買活動です。

食品廃棄物 排出量



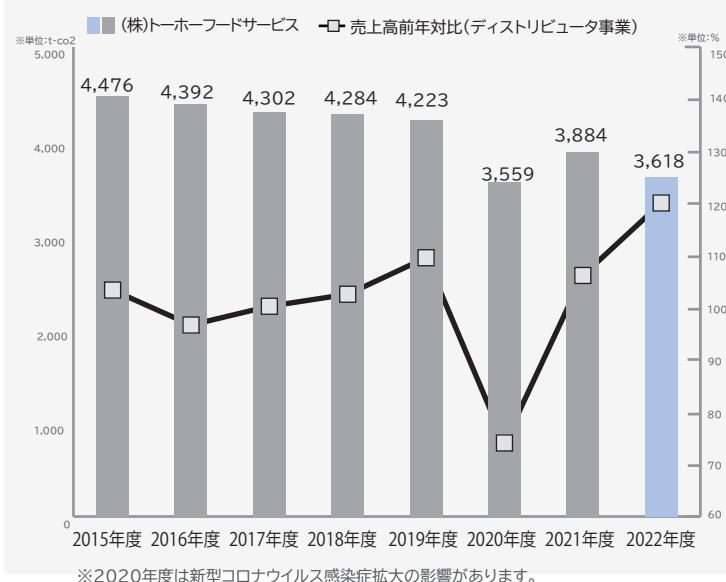
未来へ繋げるための 環境対策の取り組み

CO₂削減の取り組み

エコドライブなどによるCO₂削減の推進

(株)トーホーフードサービスでは、エコ安全ドライブの推進や計画的な車両の入替、配送ルートの見直しなどを行い、CO₂の削減を推進しています。また、「交通安全推進委員会」を設置し、交通規則ならびに車両の適正な管理や運転技術の指導教育を行い、交通安全の推進や法令遵守の強化に努めています。また、(株)トーホーフードサービスでは、追突回避支援を行うプリクラッシュブレーキなどの安全装備の導入や高さ制限による事故を防ぐため営業車両の形状の見直しを図るなど、車両の操作性向上と運転リスクの軽減に努めています。

車両からのCO₂排出量

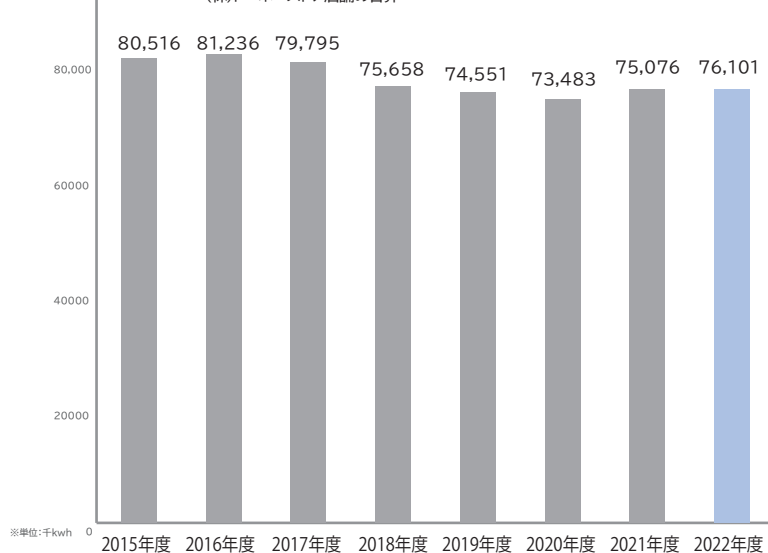


電気使用量削減

トーホーグループでは、トーホー本社駐車場（兵庫県神戸市）に982枚の太陽光パネルを設置し、年間で一般家庭の電力使用量約70戸分の電力の発電を行っています。加えて、トーホーストア平野祇園店ビル屋上（兵庫県神戸市）、(株)トーホー・北関東本社屋上（栃木県宇都宮市）、関東食品(株)本社（群馬県高崎市）でも太陽光発電を行っています。また、日々の節電はもちろん、計画的な改装に伴う節電効果の高い冷凍・冷蔵ショーケースの入替を行い、省エネルギーを推進しています。

電気使用量

(株)トーホーフードサービス支店・営業所、(株)トーホーキャッシュアンドキャリアー店舗、(株)トーホーストア店舗の合算



実施の一例

- ・照明器具や冷蔵ショーケースの照明器具をLED蛍光灯に変更
- ・計画的な冷凍・冷蔵ショーケースなどの入替、冷凍空調設備の清掃の実施など
- ・元管理システムによる冷凍冷蔵庫の温度管理の実施（(株)トーホーフードサービス）
- ・エネルギーマネジメントシステム導入による省エネルギーの推進
（(株)トーホーストア、(株)トーホーキャッシュアンドキャリアー）



災害への対策

気候変動の影響による自然災害が各地で起こり、水害や土砂災害による災害が毎年のように発生しています。トーホーグループでは、緊急事態対応規程を制定しており、緊急事態が発生した場合には、緊急対策本部を設置し、グループ会社や関係部署と連携して対応する体制を構築しています。また、食品や水、衛生日用品などの備蓄を行っているほか、災害時は安否確認メールシステムを活用し、従業員の無事を迅速に確認しています。また、ハザードマップや災害時の初動対応を記載した掲示物や緊急事態対応マニュアルの整備を行い、災害が起こっても慌てずに対応できる体制づくりを行っています。

生物多様性の取り組み

2006 年からカリマンタン島でのマングローブ植樹プロジェクト「生命の森プロジェクト」に賛同しています。粗放養殖※で育てられた対象品（エビ）の購入時にその買付金の一部を負担するという形で協力し、現在はインドネシア、タイ、ベトナム3ヶ国で取り組みが行われています。

※粗放養殖：自然の地形を活かして養殖池を造成し、無給餌で薬剤を投入することなく電力も使用せず、周囲の生態系と共存しながら育成させる環境維持を重視した養殖法です。

植樹されたマングローブの苗(トーホーグループ)

約 **42,260** 本

2009～2022年度(推計値)

従業員教育の実施

トーホーグループでは、環境活動を一層推進するために、全従業員を対象とした環境教育を毎年実施しています。また、環境関連法を遵守するために一部の環境管理責任者と担当者を対象に環境関連法の教育も行っています。

新入社員研修	トーホーグループの社会貢献、環境課題への対応についての教育を実施。
環境教育 全従業員対象	トーホーグループの環境課題への対応についての教育を実施。
環境関連法教育 環境管理責任者など	ポイントとなる環境関連法や法改正の動向について教育を実施。

